

《短 報》

肺血流容積定量による簡便な肺機能評価

肺気腫患者を対象に

金田 朋洋* 山崎 哲郎* 丸岡 伸** 阿部 養悦***
高井 良尋* 高橋 昭喜* 山田 章吾*

要旨 肺気腫患者 13 例およびコントロール 6 例に対して、肺血流 SPECT から様々な閾値を設定して肺血流容積を算出し、そこから求めた指標と肺機能との相関について検討した。両肺野の最高カウンターの a% cut off した画像から求めた容積 (Va) から b% cut off した画像からの容積 (Vb) を引き、Va で割った指標 PI を算出したが、a = 10, b = 40 の時、1 秒率および 1 秒量と最もよい相関を示した (1 秒量 $r = 0.680$, 1 秒率 $r = 0.830$ とともに $p < 0.005$)。患者群ではコントロール群に比して PI は有意に高値を示した。FHI 分類による重症度別で見ても、重症度に応じて PI が上昇する傾向が見られた。PI の算出は簡便であり、容積計算に用いた部位を断像表示することも可能である。DICOM 変換によりこれらを CT 像と重ね合わせても、臨床的有用性が高いと思われた。

(核医学 37: 359-364, 2000)